いきいき通信

広報誌：第 70 号　令和 6 年 4 月 18 日発行
発信元：〒999－8301
山形県飽海郡遊佐町遊佐字石田 7
順仁堂　遊佐病院　『広報委員会』
TEL　0234（72）2522
FAX　0234（71）2865
HP　http://www.yuza-hospital.jp/
メールアドレス　info@yuza-hospital.jp

新年度の春を迎えて

順仁堂遊佐病院
院長　佐藤 卓

NHKの放送で「ファミリーヒストリー」という家族の絆を見つめるための、実際の記録を辿ったドキュメンタリー番組があります。一人の人物の係累を先祖までたどり、その今を生きる子孫の現在の生き方や思いに先人の意思を敷延させるという番組です。私も年を重ねて来たせいかその番組には熱心に見入ることがあり、その番組を見ながら時にふと自分の先祖たちのことに思いをはせることが多くなりました。この遊佐郷で安政元年に医院を開業した祖は、羽後松山藩の典医佐藤伯全の三男として生まれた意泉でした。長じて佐倉順天堂の医塾で蘭方を学び庄内での地域医療に貢献した人物ですが、遊佐の地で何代かの年月が重なった後に今日の私どもの一族があります。私はその一族の中で数えれば十三人目の医者となっている次第です。

先の医師たちには多くの艱難があったようです。中でも意泉の長男の玄太は三十七歳の若さで病没しましたが、彼は医師となってからの若き日の一時期、開道して間もない北海道の各地で地域医療を担っていたようでした。当時の北海道は脆弱な医療の現実の中にありました。その地域医療の担い手となった彼が道内各地で直面したであろうその苦難を、今日の私には大いに理解できるところです。奇しくも北海道立札幌医科大学を卒業し外科医となってからの私には、広大な道内の各地で地域医療を支えて来たという経歴があるからです。遊佐に戻ってから初めてその彼の北海道での貢献を知ったのでしたが、不思議なその因縁に私はとても驚いたものでした。

そして次男の国蔵のことです。彼は現在病院の玄関前の一角に胸像となって立っておりますが、本邦における点字楽譜の祖と称されている人物です。若き日東京大学医学部の別課に入学したのでしたが眼疾を得、視力の低下で失明の危機に陥ったために一時期東京盲唖学校の技芸科に転入したという経歴があります。そこで彼はバイオリンを学ぶ中で盲人のための点字楽譜の必要性を認識し、良き指導者にも恵まれたこともあり苦難の中でそれを編み出したのでした。するとその後の彼の運命は好転します。当時最先端の眼科手術を受ける機会があり、その結果として十分な視力の回復を得ることができたのです。そしてすぐに医学校に復帰し無事に卒業、医師開業資格試験にも通り遊佐に帰ることができたのでした。しかし帰郷して地域の医療を支えたその彼も四十二歳の若さで病没しています。私も遊佐に戻ってからは時に自分の過ごして来た過去を思い、先人の苦労の半分は理解しただろうかと思索する日々なのです。

さて、現在の順仁堂遊佐病院のことです。今の時代は地域医療を担当する中小の病院にとっては冬の時代が続いているのです。私が思うに今の国の医療政策は、地方の医療の現状を十分に考慮しているとは思えない程のものです。北海道でも長らく病院の院長をして来た私にとってもそれは到底理解し難いものなのです。この春特に問題となっていることは、新年度からの新しい診療報酬の改定です。今回は六年ぶりの医療・介護・障害福祉サービスのトリプル改訂なのですが、その影響の大きさは甚大なものになると思われます。予想されるこの六月からの実施内容とは、全国の多くの医療施設全般にとって経営上極めて厳しいものとなっているからです。すなわち存続を危うくする程のものといえるのです。したがってさすがに今年は、それによる混乱を避けるためにと四月からではなく六月からの実施となりました。当院といたしましても、その受け入れには大いに苦慮しているところなのです。しかし泣き言を言っているばかりでは地域の医療を守ることはかないません。先人の苦難の思いを考えつつ、今回も何とかこの状況を乗り切るべく努力を重ねていこうと考えているところです。その上で今後とも安全、安心、安楽を旨とした仁のある医療を、地域の患者の皆様方には提供して参りたいと思っております。どうぞこれからもご理解の程よろしくお願いいたします。

新たな看護部へ

副院長兼看護部長　信夫松子

2001 年、療養病棟開設にあたり看護部職員の前で、私は「日本一の看護を!」と話をしました。最善の看護をするために、まずは「職員が働きやすい職場づくり」に取り組みました。おかげさまで「ワーク・ライフ・バランス」が定着し、いよいよ今年度は「新たな看護部づくり」に踏み出します。「患者さんと患者さんを支える方々を支える看護」をするために、「智恵と工夫」、「連携と協働」をキーワードに大幅に看護部職員の異動をしました。

「日本一美しい公園」とドナルド・キーンが称えた栗林公園(香川県)には、1000 本にも上る「手入れ松」があり、枝葉の成長や日当たりの具合いを予測・計算しながら手を入れ新陳代謝を促すそうです。開設時からの大きな目標を各看護師長はじめ全スタッフと力を合わせ目指していきたいと思います。

外来看護師長　阿蘇静子

遊佐町は、高齢化率が高く高齢者の独り暮らしの方も多くいらっしゃいます。住み慣れた地域やご自宅で安心して療養生活を送れるように関係機関の職員と日頃より情報共有し連携を図っております。遊佐町民または当院がかかりつけの患者さんが通院中でも退院後でも安心できる医療・看護の提供とご家族のお力になれるように、「新しい看護部」のキーワードである「知恵と工夫、連携と協働」に努め、思いを１つに役割を果していきたいと考えます。

1病棟看護師長　佐藤里沙

１病棟は治療が必要な方の入院や介護で短期宿泊が必要となった場合のショートスティ等をお受けしている病棟です。私たちは、自然豊かなこの地域で暮らしてこられた方々の「想い・願い・望み」に応える、心通う温かな看護を提供したいと考えています。１病棟で過ごす日々が、皆さまにとって苦しみや辛さから少しでも解放され笑顔のある癒しの時間となるようプロとして援助技術と心を尽くしてケアさせて頂きます。１病棟が皆さまから信頼され安心して過ごすことができる第２のお家（居場所）のように感じて頂ける病棟を皆さまのご協力も頂きながらスタッフ全員で目指します。お気づきの点あれば遠慮なくお声がけください。

2病棟看護師長　山本ちさと

春光うららかな季節となりました。新設 2 病棟では「常にベッドサイドに看護職がいるキラキラした病棟」「向上心を持ち病院・地域に貢献する病棟」というビジョンのもと、患者様の尊厳を大切にして常に寄り添う。入院日数が長期にわたる療養型の特徴を踏まえ患者さんの居場所となれるような温かい病棟。スタッフがプラスの発言をしてお互いに認め合い働きやすい病棟。以上を目標として病棟運営をしていきたいと考えています。そして、今年度は診療報酬改定年度です。病院に貢献できるようスタッフ全員が診療報酬についての理解、生涯学習を通じて常にアップデートし、お互いに高め合えるような病棟を目指してチーム一丸となり同じ方向を向いて楽しく働いていきたいと思います。

職員募集

・作業療法士、言語聴覚士
年齢不問

・介護員　若干名
常勤(非常勤も可)
無資格者可(入職後研修受講支援あり)
できれば夜勤可能な方

訪問看護師による健康みまもり

この問題に、訪問看護ステーションゆざが解決いたします。
訪問看護師が離れて住む家族にご両親の健康状態や生活状況を毎月お知らせいたします。　また、急な体調の変化の際には、医療機関に適切につなぎます。
安心のために、訪問看護師による「健康みまもり」を利用してみませんか？
１度無料でのお試しも行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

老いてきた両親のことが心配💧　電話では「大丈夫」って言うんだけど…。　ちゃんと食べているのかな～？
気軽に会いに行けないし…。

訪問看護ステーションゆざ
TEL:0234-28-8166(平日 8:15～17:00)
FAX:0234-28-8168